



お花にはなぜ色がついているのですか？（小学2年生）



あなたの質問の「なぜ」というのが、「どういうしくみ」でという意味なら、こたえはよく分かっています。

花には、青なら青、赤なら赤、それぞれの色をつくりだす「しきそ」というものがふくまれているからです。

たとえばむらさき色のアサガオの花を水につけて、よくもんでしぼると、その「しきそ」が水に出てきて、水がむらさき色になります。

水にはとけず、あぶらにとける「しきそ」もあって、たとえばヒマワリの黄色は、そういう「しきそ」です。

でも、「なぜ」というのが、「なんのために」という意味だとすると、こたえはむずかしくなります。

人間は花になったことがないので、花がどんなつもりでいるのかは、だれにもわからないからです。

ちょっとヒントはあります。

それは、たとえば人間の目には白一色に見える花も、虫の目と同じように見えるきかいを通して見てみると、もっといろいろなもようをもっていることがわかるのです。つまり、虫は人間が見るよりもっとずっといろいろな花の色やもようを見ているらしいのです。

さて、虫は花のおくにあるみつを吸いに飛んでくるのですが、そのときおしべの「かふん」を体にたくさんつけます。その虫が次の花に飛んで行くと、その「かふん」が次の花のめしべにつきます。

こうして花は実をつけることができます。だから、花は自分の「かふん」を自分と同じしゅるいの別の花に運んでもらうために、「ほらぼくはスミレだよ、みつをあげるから、代わりにぼくのかふんを別のスミレにはこんでいってね」とか「私はナノハナ、次もナノハナに行ってね」と虫にたのむのです。

たぶん、花の色やもようは、虫に自分はなんの花かをおしえる目じるしになっているのではないか、とおもわれます。でも、かふんはこびを虫にたのまないで風にたのむ花もあって、そういう花にもやっぱり色やもようはあるので、もしかしたら、ぜんぜんちがうかもしれません。

あなたが考えて「きっとこうじゃないかな」といういい考えを思いついたら教えてください。